

年末を迎え、巷では「今年の重大ニュース」が話題になってくる季節ですね。スポーツ界の「重大ニュース」は、まず筆頭が「ラグビーワールドカップで日本代表が南アフリカを破る！」ではないでしょうか。それ以降のラグビー人気、殊に五郎丸選手の人気は、日本ラグビー史上最高の盛り上がりとも言われています。

五郎丸選手といえば、あの「ポーズ」が話題になり、2015 流行語大賞でも、「五郎丸ポーズ」がトップ10 入りしていました。しかし、あれは単なる「ポーズ」ではなく、一連の動き＝「ルーティン」だったんですね。彼はあの「ポーズ」ではなく、そこに至るまでの「ルーティン」によって、正確なキックを生み出してきたのです。野球界では、イチロー選手の「ルーティン」が話題になり、野球少年達がよく真似をしていましたね。この一流選手2人の「ルーティン」には、ラグビーと野球という違いはあるものの、「成功のためのイメージ作り」と「不安解消のため」という2つの共通点があるのではないかと思います。

学校に通う子どもたちにも「ルーティン」があります。登校したらランドセルから教科書などを出して机に入れ、提出物を所定の位置に置き、グラウンドに遊びに行く(雨が降ったら、読書やお絵かき)。チャイムが鳴ったら教室に戻り、朝の会・・・といった「ルーティン」があって1時間目の学習に入っていきます。この「ルーティン」によって、家庭生活から学校生活に気持ちを切り替え、その後の学習にも落ち着いて取り組んでいくことができるのです。だからこそ、この「ルーティン」を1年生の入学時にしっかりと身につけさせていく必要があるのです。

気をつけなくてはならないのは、個人的な「ルーティン」が一般的社会的通念からかけ離れている場合です。一定年齢を過ぎても人前で「鼻くそをほる」とか「指をしゃぶる」といった行為が、本人の「不安の解消」のための「ルーティン」になっているとしたら・・・それを「だめっ!」と制止するだけでは、本人の不安感が増幅するばかりです。「その行為は、周りの人を嫌な気持ちにさせるよ。」ということを教えると共に、例えば「鼻は上から触るようにしよう。」や「指は口に入れずに、あごや唇を触るようにしよう。」などと具体的な方法を示して、人から疎まれない行為に変換させていくことが大切だと思います。

ご家庭ではこの季節、新しい年を迎えるための「ルーティン」もあるのではないのでしょうか。よい「ルーティン」でよいお年を。

(特別支援教育コーディネーター 田中和彦)



おしらせ

◆掛川二の丸美術館が募集した「スケッチ作品」でたいへん多くの受賞者がありました。

※小学生応募数 452 点 (入選 23 点)

【市 長 賞】2年：大石朔也

【掛川おかみさん会賞】4年：柴田苺心

【中 日 賞】2年：土屋健斗

【静岡朝日テレビ賞】4年：平松未季

【奨 励 賞】4年：齋藤優晟

3年：柴田涼介

【美 術 館 長 賞】1年：加藤希和

【資生堂アートハウス賞】3年：萩原陽琉

【中 日 賞】1年：渡辺有音

【静岡新聞社・静岡放送賞】3年：糟谷優奈

1年：伊藤天音 1年：密岡みほ

2年：桑原拓海

◆「税に関する作品」(習字の部)

【県知事賞】林 友喜

【静岡県納税貯蓄組合連合会 佳作】山田 涼、佐々木慶人、山田涼花

◆「防火ポスター」

【消防団長賞】内藤 叶

